

(独立行政法人教員研修センター委託事業)
教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

報告書

プログラム名	ヘルス・プロモーティング・スクール（健康的な学校づくり）を推進する 教員養成プログラム
プログラムの特徴	諸外国ではヘルス・プロモーティング・スクールとして、学校が保護者や地域との連携のもとにすすめる“健康的な学校づくり”が、始まっている。我が国においても、子どもたちの健康上の課題は多様化しており、すべての教職員が心身の健康上の課題に対応する基礎的な能力を獲得することが求められている。また、2009 年 4 月には学校保健安全法が施行され、すべての教員が健康観察、保健指導を行うことが義務付けられた。 しかしながら、現行の教員養成課程には、学校保健に関しては必須科目ではないため、これらの基礎的な能力は、教員になった後の研修に頼らざるを得ない。また、本法では養護教諭は健康上の課題に対応する職員連携のコーディネーターとして、これまで以上の役割を期待されている。 そこで、メンタル並びにフィジカル面での健康をはじめ、食育、感染症対策、特別支援教育、健康に大きな影響を与えるメディアリテラシー、さらに、健康観察・保健指導力、保護者・地域との連携等も含めた、ヘルス・プロモーティング・スクールに関する基礎的・総合的プログラムが必要となる。 本プログラムでは、教育学部の様々な専門のメンバーが参画し、実践力向上のためのケースメソッド教育も導入することにより、教員対象を対象とするヘルス・プロモーティング・スクールの総合的な研修プログラムを開発することを目的とする。

平成 23 年 3 月

千葉大学教育学部ヘルス・プロモーティング・スクール・プロジェクト

目次

(紙面の関係上、内容の詳細は冊子体報告書を参照)

モデルプログラムの全体概要	
---------------	-------

I 開発の目的・方法・組織

1 開発の目的	
2 開発の方法	
3 開発組織	

II 開発の実際とその成果

1 健康課題別研修	
2 基礎研修	
3 総合研修	
1) 研修の背景とねらい	
2) 対象・期間・人数・会場・日程・講師	
3) 研修項目の配置の考え方	
4) 研修項目の内容・実施形態	
5) 使用教材・進め方	

III 評価

1 基礎研修評価	
1) 参加者対象・質問紙調査	
2) 実施者・観察者評価	
3) 指導主事からの評価	
2 総合研修評価	
1) 香港におけるインタビュー調査（事前調査）	
2) 参加者対象・質問紙調査	
3) 実施者評価	
3 総合考察	
1) 本モデルプログラム（基礎研修・総合研修）に対する総合評価	
2) 連携による研修について、他教育委員会に応用してほしい点	

IV 研修会資料

モデルプログラム全体概要

今回、健康的な学校づくりを担う教員・養護教諭に対する総合的な研修プログラムを、大学と県教育委員会との連携のもと、大学の様々な専門家が参画し、開発・実施・評価を行った。本プログラムは、【全体概要】【健康教育推進学校の実践報告】【各論】に加えて【教員のストレスに対応するプログラム】という構成となっている。

【全体概要】

「ヘルス・プロモーティング・スクール」の全体像をつかむため、我が国における HPS の状況について解説する 15 分の DVD の視聴と、講義を通じて理解を深める。

【健康教育推進学校の実践報告】

「ヘルス・プロモーティング・スクール」の具体的なイメージをつかむため、我が国における健康教育推進学校など先駆的に行っている学校の実践例について紹介する。(幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校など各校種の紹介が望ましい)

【各論】

「ヘルス・プロモーティング・スクール」を構成する様々な要素を個別対応する研修メニューにより、学校のニーズや地域の健康課題に即した研修が出来るよう 12 の研修を用意した。

<テーマ別各論>

テーマ	内容
健康教育を通じて子どもの実践力を高めるには	教え込みの健康教育から脱却して、子どもが主体的に学び、知識を活用する学習活動を取り入れることや、行動科学の成果を活用し、ヘルスプロモーションを基盤とした健康教育を行うことなどに関して、実践例を紹介しながら講義を行う。＜講義＞
フィジカルヘルスから考える健康的な学校づくり ～心と体のつながり～	現在の子どもたちが抱える問題について学んだ後、心と体に働きかけるワークショップを行った。教育現場で即実践できる様々な活動を紹介する。＜講義と演習＞
幼児期からの家庭・保護者との連携	子どもの健やかな発達にとって、学校と家庭の連携は不可欠です。保育所や幼稚園では、育児不安や児童虐待などの子育てをめぐる問題に対して、育児相談などの子育て支援が実施されています。本課題別研修では、保育カウンセラーの実践を踏まえ、幼児期からの家庭との連携の在り方、小学校・中学校以降にも共通する保護者対応の原則について具体的に解説する。
健康課題を解決するための連携を考えるケースメソッド	本講座は、参加討論型のケースメソッドにより、子どもの健康課題を解決するためのアセスメントや対応策、連携方法を検討し、受講者が意思決定・問題解決できる手掛かりを得ることを目的とする。＜演習＞
発達障害の二次障害を防ぐ	発達障害には、学習障害、注意欠陥・多動性障害、高機能自閉症などが挙げられます。一次的な障害特性は各々異なりますが、共通する二次障害が学校での不適応となって

	表われます。二次障害を予防・軽減する支援について協議する。＜講義と演習＞
思春期の精神保健	思春期の発達課題および精神病理を踏まえ、思春期の心の危機状況の理解と援助について検討します。疾患・問題行動として、摂食障害・過呼吸症候群・自傷行為・過量服薬(OD)などを講義を行う。＜講義＞
学校における事件・事故とこころのケア	予期せぬ突然の事件や事故によって学校コミュニティが危機事態に陥ったとき、何が起ころのでしょうか？ また、学校コミュニティの機能回復とこころのケアのためにはどのようなことが必要とされるのでしょうか？本課題別研修では緊急支援の基礎を学びます。＜講義＞
健康教育とメディアリテラシー	ゲームやケータイから離れられない「メディア依存」、ケータイをめぐるトラブル等を踏まえ、メディアに関わる健康教育の在り方を具体的にご紹介します。＜講義＞
おいしさと食育	味覚実験を通しておいしさの要素を知り、調理の基礎「ゆでる」をとりあげ、実習によりおいしくする知識と技術を獲得し、学校における食育の在り方と課題について考えます。＜演習＞

＜関係づくり各論＞

造形活動を通じた人との関係づくり	造形活動を通して、活動参加者同士の関係づくりの一助となるような演習を行う予定です。また造形をもとにした人や地域とのコミュニケーションづくりの活動事例もご紹介いたします。＜演習＞
学び環境の閉鎖性と解放性 ～大学院授業の学生による成果発表～	学校教育臨床専攻で開設した「授業研究XVI」で、「学校不適応要因としての学級・学年制」をテーマにしたプロジェクト研究を発表する。＜成果発表＞
グループの空気はどのように作られる	個人がグループの空気をつくり、その空気が個人の言動を誘発する相互作用の中で心身の健康も影響を受けています。どうしたら、グループの潜在性が解発されると個人ののびやかな成長も促進されるのでしょうか。オートポイエーシスにヒントを得て実習形式を混ぜて提案します。 （多少動ける服装でご参加ください）＜演習＞

【教員のストレスに対応するプログラム】

教員のメンタルヘルス	教員のメンタルヘルスについて実態調査と事例のメタ分析を提示しながら講義する予定です。(初任者教員のメンタルヘルスを含む) ＜講義＞
音楽と健康	研修参加者のメンタルヘルスに対して、ピアノ演奏によるストレス緩和等を狙った。音楽は言葉では伝えられないものを表現し、人間の精神に深く働きかける、根源的コミュニケーションであるといえます。音楽は感受性を育み、音楽を通して他者とのつながりを感じることは、心を豊かにするのです。＜ピアノ演奏＞

I 開発の目的・組織

1 開発の目的

諸外国ではヘルス・プロモーティング・スクールとして、学校が保護者や地域との連携のもとにすすめる“健康的な学校づくり”が、始まっている。我が国においても、子どもたちの健康上の課題は多様化しており、すべての教職員が心身の健康上の課題に対応する基礎的な能力を獲得することが求められている。また、2009年4月には学校保健安全法が施行され、すべての教員が健康観察、保健指導を行うことが義務付けられた。

しかしながら、現行の教員養成課程では、学校保健に関しては必須科目ではないため、これらの基礎的な能力は、教員になった後の研修に頼らざるを得ない。また、本法では養護教諭は健康上の課題に対応する職員連携のコーディネーターとして、これまで以上の役割を期待されている。

そこで、メンタル並びにフィジカル面での健康をはじめ、食育、感染症対策、特別支援教育、健康に大きな影響を与えるメディアリテラシー、さらに、健康観察・保健指導力、保護者・地域との連携等も含めた、ヘルス・プロモーティング・スクールに関する基礎的・総合的プログラムが必要となる。

本プログラムでは、教育学部の様々な専門のメンバーが参画し、実践力向上のためのケースメソッド教育も導入することにより、教員対象を対象とするヘルス・プロモーティング・スクールの総合的な研修プログラムを開発することを目的とする。

2 開発組織

開発は、千葉県教育委員会、千葉大学教育学部、そして専門的知見をもつ外部機関とで連携して行った。開発体制は下記の通りである。

【千葉大学】

氏名	専門
岡田加奈子	養護教諭養成教育、学校ヘルスプロモーション
揚原祥子	ピアノ演奏法
石井克枝	家庭科教育、食物学・調理学
磯邊聡	臨床心理学

北島善夫	特別支援教育、障害児心理学
小橋暁子	図画工作科・美術科教育、造形教育内容研究
砂上史子	保育学、保育カウンセリング、子育て支援
高橋浩之	健康教育学
中澤潤	幼児心理学、発達心理学
七澤朱音	体育科教育学、舞踊教育学
藤川大祐	教育方法学、授業実践開発
ベヴァリー・ホーン	英語教育、異文化理解
保坂亨	教育相談
宮寺千恵	障害児心理学

【千葉大学協力者】

上杉賢士 千葉大学教授
徳山郁夫 千葉大学教授
花澤寿 千葉大学准教授

【千葉県教育委員会】

安田一夫 教育振興部指導課主任指導主事
高野義幸 教育振興部指導課指導主事
岡野美智代 教育振興部指導課指導主事
江波戸裕子 教育振興部学校安全保健課主任指導主事
椎名和浩 教育振興部学校安全保健課指導主事

【教育委員会教育事務所】

綿貫貴 東葛飾教育事務所指導室長
深田義之 東上総教育事務所指導室長
伊藤雅敏 東上総教育事務所指導主事
高山佳久 東上総教育事務所指導主事

【外部機関】

衛藤隆 東京大学名誉教授
竹鼻ゆかり 東京学芸大学准教授

【DVD 製作等】

福嶋俊 千葉大学教育学部小学校教員養成課程
阿部学 千葉大学大学院人文社会科学研究科後期博士課程

【協力者】

鎌塚優子 東京学芸大学大学院連合学校教育研究科健康・スポーツ系教育講座
印南清香 千葉大学教育学部養護教育専攻修士課程
上村チエミ 千葉大学教育学部養護教諭養成課程
澤田貴子 千葉大学教育学部養護教諭養成課程
時代 千葉大学教育学部客員研究員
伊藤麻紀 千葉大学教育学部

Ⅱ 開発成果

1 健康課題別研修

詳細は冊子体報告書参照

2 基礎研修

詳細は冊子体報告書参照

3 総合研修

1) 背景とねらい

健康課題別研修と基礎研修を通して出てきた課題と、香港での本プログラムに対するインタビュー調査における評価をもとに、総合的研修のプログラムを検討していった。香港におけるインタビューでは下記のコメントを頂いた。

「香港では、HPS に取り組む学校には最低でも2週間のトレーニングを受けてもらっている。まずは、6時間の基本講座を受けてもらい、段階的にHPSへの理解を深め、必要な知識技能を取得していく体制を整えている。その中では、エビデンスに基づいた指導をしたり、経験のある教師に話をしてもらったりする機会などを重視している。」

健康課題別研修と基礎研修では短時間の講義を通じてヘルス・プロモーティング・スクールの概要について研修を行ってきたが、実践的なスキルを養成していくために、それ以前よりも幅広いテ

ーマを扱う実践的な研修を作っていくことが必要となる。日本の健康推進学校の実践報告と、幅広いテーマを網羅する課題別研修を組み合わせ、総合的にヘルス・プロモーティング・スクールについての理解を深める研修とすることをねらいとした。

2) 対象・期間・人数・会場・日程・講師

対象 教員等

期間 平成 23 年 2 月 6 日（日）13:00～16:30

人数 約 300 人

会場 千葉大学教育学部

講師 岡田加奈子等（次ページ参照）

3) 研修項目の配置の考え方

本プログラムは、HPS の全体概要の解説、健康推進学校による実践紹介、そして課題別研修で構成した。健康推進学校による実践紹介では、2009 年度健康推進学校表彰事業で優秀校として表彰された学校などから、小学校 1 校、中学校 1 校、高等学校 1 校を招き、実践紹介を行ってもらうこととした。また、課題別研修については、千葉大学ヘルス・プロモーティング・スクール・プロジェクトのメンバー等が、ヘルス・プロモーティング・スクールで重要と考えられる 13 の研修を設定した。今回は、時間の関係上、参加者はこれらの課題別研修から選択したが、研修期間を長く設定し、最終的にはすべての課題を学習することが望まれる。

4) 研修項目の内容・実施形態

12:30～13:00 受付

13:00～13:10 挨拶 齋藤康（千葉大学長）

13:10～13:30 **【HPS の概要説明】** 岡田加奈子（千葉大学）

13:30～15:00 **【パネルディスカッション】**

「HPS を今後日本でどのように進めていくか」

司会進行 中澤潤（千葉大学）

実践発表 佐久間朋子（養護教諭：新潟市立大淵小学校）

風間武（学校歯科医：新潟市立大淵小学校）

今関富子（養護教諭：芝山町立芝山中学校）

赤木光子（養護教諭：青森県立青森高等学校）

コメンテーター 岡田加奈子（千葉大学）

衛藤隆（東京大学名誉教授）

安田一夫（千葉県教育委員会指導課主任指導主事）

15:05～15:20 ピアノ演奏 揚原祥子（千葉大学）

15:20～15:25 中締め挨拶 瀧澤文雄（千葉大学教育学部長）

15:35～16:30 【課題別研修】

【総合的研修における課題別研修一覧】

	担当者	テーマ	方法	概 要
1	高橋浩之	健康教育を通じて子どもの実践力を高めるには	講義	教え込みの健康教育から脱却して、子どもが主体的に学び、知識を活用する学習活動を取り入れることや、行動科学の成果を活用し、ヘルスプロモーションを基盤とした健康教育を行うことなどに関して、実践例を紹介しながら講義を行います。
2	保坂 亨	教員のメンタルヘルス	講義	教員のメンタルヘルスについて実態調査と事例のメタ分析を提示しながら講義する予定です。（時間が許せば、初任者教員のメンタルヘルスについても取り上げます。） 教職員対象
3	上杉賢士	学び環境の閉鎖性と解放性～大学院授業の学生による成果発表～	講義 90分	学校教育臨床専攻で開設した「授業研究XVI」で、「学校不適応要因としての学級・学年制」をテーマにしたプロジェクト研究の成果を、現職教員が多い大学院生が発表します。大学院の授業を知るよい機会にもなります。
4	花澤 寿	思春期の精神保健	講義	思春期の発達課題および精神病理を踏まえ、思春期の心の危機状況の理解と援助について検討します。疾患・問題行動として、摂食障害・過呼吸症候群・自傷行為・過量服薬(OD)などを取り上げます。
5	磯邊 聡	学校における事件・事故とこころのケア	講義	予期せぬ突然の事件や事故によって学校コミュニティが危機事態に陥ったとき、何が起こるのでしょうか？ また、学校コミュニティの機能回復とこころのケアのためにはどのようなことが必要とされるのでしょうか？本課題別研修では緊急支援の基礎を学びます。
6	藤川大祐	健康教育とメディアリテラシー	講義	ゲームやケータイから離れられない「メディア依存」、ケータイをめぐるトラブル等を踏まえ、メディアに関わる健康教育の在り方を具体的にご紹介します。
7	徳山郁夫	グループの空気はどのように作られる	講義と 演習	個人がグループの空気をつくり、その空気が個人の言動を誘発する相互作用の中で心身の健康も影響を受けています。どうしたら、グループの潜在性が引き出され個人ののびやかな成長も促進されるのでしょうか。オートポイエーシスにヒントを得て実習形式を混ぜて提案します。
8	砂上史子	幼児期からの家庭・保護者との連携	講義	子どもの健やかな発達にとって、学校と家庭の連携は不可欠です。保育所や幼稚園では、育児不安や児童虐待などの子育てをめぐる問題に対して、育児相談などの子育て支援が実施されています。本課題別研修では、保育カウンセラーの実践を踏まえ、幼児期からの家庭との連携の在り方、小学校・中学校以

				降にも共通する保護者対応の原則について具体的に解説します。
9	七澤朱音	フィジカルヘルスから考える健康的な学校づくり～心と体のつながり～	講義と演習	現在の子どもたちは、心身に大きな問題を抱えています。心の問題が体へと波及し、他者との関係にまで悪影響を及ぼすことがあります。人と人との関わり合いが、子ども達の心身にどのような影響を与えるのかについて学んだ後、心と体に働きかけるワークショップを行います。教育現場で即実践できる様々な活動をご紹介します。
10	北島善夫	発達障害の二次障害を防ぐ	演習	発達障害には、学習障害、注意欠陥・多動性障害、高機能自閉症などが挙げられます。一次的な障害特性は各々異なりますが、共通する二次障害が学校での不適応となって表われます。二次障害を予防・軽減する支援について協議します。
11	小橋暁子	造形活動を通して人との関係づくり	演習	造形活動を通して、活動参加者同士の関係づくりの一助となるような演習を行う予定です。また造形をもとにした人や地域とのコミュニケーションづくりの活動事例もご紹介します。
12	石井克枝	おいしさと食育	演習 90分	味覚実験を通しておいしさの要素を知り、調理の基礎「ゆでる」をとりあげ、実習により、おいしくする知識と技術を獲得し、学校における食育の在り方と課題について考えます。
13	竹鼻ゆかり (東京学芸大)	健康課題を解決するための連携を考える ケースメソッド	演習 90分	本講座は、参加討論型のケースメソッドにより、子どもの健康課題を解決するためのアセスメントや対応策、連携方法を検討し、受講者が意思決定・問題解決できる手がかりを得ることを目的とします。 教職員対象
14	揚原祥子	ピアノ演奏	パネルディスカッション後	音楽は言葉では伝えられないものを表現し、人間の精神に深く働きかける、根源的コミュニケーションであるといえます。音楽は感受性を育み、音楽を通して他者とのつながりを感じることは、心を豊かにするのです。

5) 使用教材・進め方

本パネルディスカッションで使用した教材・資料はIV研修会資料として冊子体に掲載。

【総合的研修の様子】



【岡田による HPS の概要説明】



【実践校の先生方】



【パネルディスカッションの様子】



Ⅲ 評価

（研修の効果と課題）

1 基礎研修評価

冊子体報告書を参照

2 総合研修評価

1) 香港におけるインタビュー調査（事前調査）

課題別研修、基礎研修の結果を踏まえて、「ヘルス・プロモーティング・スクール（健康的な学校づくり）を推進する教員養成モデルプログラム（仮）」を開発した。そのプログラムに対して、HPSの人材養成を行っている香港中文大学ヘルスプロモーション研究所の専門家2名を対象に、本カリキュラムに対してインタビュー調査を行った結果、以下のような、意見をいただいた。

インタビュー対象者

Robin Cheung (Professional Consultant, Centre for Health Education and Health Promotion, School of Public Health and Primary Care, Faculty of Medicine, The Chinese University of Hong Kong)

Keung Mei Wan (Health Promotion Co-ordinating Officer, Centre for Health Education and Health Promotion, School of Public Health and Primary Care, Faculty of Medicine, The Chin

【表 香港における専門家インタビュー調査結果】

日本でも取り組みがスタートしたことは素晴らしい。ただ、ヘルス・プロモーション・スクール（以下：HPS）のコーディネーターを養成するのに、研修が3時間しかないのはとても短いと感じる。香港では、HPSに取り組む学校には最低でも2週間のトレーニングを受けてもらっている。まずは、6時間の基本講座を受けてもらい、段階的にHPSへの理解を深め、必要な知識技能を取得していく体制を整えている。その中では、エビデンスに基づいた指導をしたり、経験のある教師に話をしてもらったりするなどの機会などを重視している。

香港での現場経験を踏まえて話をすると、香港のHPSには、HPSを推進するための5名から6名からなる委員会がある。その委員会の委員長は健康科学に関する修士号をもった人物である。その委員会が企画やアイデアを学校に提案するなど、HPS推進のための中心的役割を担っている。彼らはHPS推進において中心的な役割を果たしているものの、やはり企画の実行においては管理職の役割が重要になってくる。特に、学校長のコミットメントが非常に重要であり、管理職や経験のある専門知識を豊富に持った教諭の力添えが、HPS推進の鍵となると感じてきた。そのため、日本で推進する際にも、学校内にHPSの委員会を作ると同時に、年配の教諭や管理職にHPSの大切さに気付いてもらうことが重要になるだろう。

その中でも、教職員の健康についての理解が重要である。香港の教師は、日本の教師と同様に子どもの健康に対しては高い意識を持っているものの、教師自身の健康については無頓着であることが多い。教職員のメンタルヘルス、学校の社会的環境など、学校の健康を包括的に推進することの意義を、管理職に認識させることが重要となる。ただ、これは非常に困難な仕事となるので頑張ってもらいたい。

次に、HPSの推進のための研修についてアドバイスしたい。まず、HPSはカリキュラムの一部分ではなく、カリキュラムそのものだということを理解してほしい。それゆえ、学校内でHPSの体制を作ることが非常に重要になってくる。香港では、まずHPSのスキームを理解してもらった後に、WHOより提唱されているHPSの6つの枠組みに沿って、保健、メディアリテラシーなど学校や教師のニーズに合わせて個別の講座を展開している。香港ではHPSのトレーニングを受けられる学校を限定しており、HPSに興味を持った学校が、段階的にHPSについて理解できる体制を整えている。

最後になるが、HPSの推進には、保健、学習、リーダーシップの3つが必要である。この3つの条件が揃ったときにHPSが効果的に機能すると考えている。香港でも現在はリーダーシップに関するトレーニングは行っていないが、今後必要になってくると思われる。ここまであげた点を、日本における推進においても参考にしてほしい。

2) 参加者対象・質問紙調査

当日の参加者は約 300 名であり、そのうち回収されたアンケートは 211 名で回収率は 70%であった。評価票は冊子体報告書を参照。以下にアンケートの結果の概要を記す。

（１）パネルディスカッション「HPS を今後日本でどのようにすすめていくか」の満足度

パネルディスカッション「HPS を今後日本でどのようにすすめていくか」の満足度について、「①満足している」から「⑤全く満足していない」までの 5 つの選択肢によって尋ねた質問項目の回答結果を表に示す。

【表：パネルディスカッション「HPS を今後日本でどのように進めていくか」についての満足度】

選択肢	回答数 (比率)
① 満足している	52 (24. 6%)
② おおむね満足している	94 (44. 5%)
③ どちらでもない	27 (12. 8%)
④ あまり満足していない	6 (2. 8%)
⑤ 全く満足していない	1 (0. 5%)
⑥ 無回答	31 (14. 7%)
合計	211 (100 %)

表から「①満足している」「②おおむね満足している」を合わせると約 7 割近い参加者がパネルディスカッションに「満足」しており、パネルディスカッションの内容は参加者にとって有意義であったと考えられる。

（２）パネルディスカッション「HPS を今後日本でどのようにすすめていくか」の感想（自由記述）の主なもの

パネルディスカッション「HPS を今後日本でどのようにすすめていくか」に対する自由記述による感想のうち、回答が多かったものや、今後にむけての改善点および検討課題として重要と思われるものを表に示す。

【表：パネルディスカッション「HPS を今後日本でどのようにすすめていくか」の参加者の感想】

* 設備・構成に関して

- ・マイクの音量が小さくて聞き取りにくかった。
- ・時間が足りない（内容が詰め込みになってしまった感じがある）。
- ・ディスカッションの時間が短く、もっと議論があればよかった（議論より発表という感じだった）。

* パネルディスカッションの内容に関して

- ・刺激・参考になり、自校でも今後取り入れたいと感じた。
- ・実践内容が具体的でよかった。
- ・多様な取り組みが紹介され、参加者のニーズに応えられたのではないかな。
- ・実践内容が「理想」という感じで取り組みづらいと感じた。
- ・地域・組織連携の重要性を痛感した。

（３）課題別研修に対する参加者の意見（概要）

パネルディスカッション後の 13 の課題別研修に対する参加者の感想は、5 つの選択肢で満足度を尋ねた質問において、いずれも「①満足している」「②おおむね満足している」が大半回答を占めており、参加者の満足度は高かった。

3) 実施者評価

（１）パネルディスカッションに対する実施者評価

次に、本プロジェクトメンバー（大学教員）から寄せられた同パネルディスカッションに対する意見の主なものを表に示す。

【表：パネルディスカッションに対する本プロジェクトメンバー（大学教員）の意見】

* パネルディスカッションの内容に関して

- ・「理想形」やモデル提示だけでなく、多くの学校ではそうできない制度的・構造的問題を取り上げることも重要だと思った。
 - ・今後の HPS を進めて行くうえでの課題を明らかにするなどの視点があればよかった。
 - ・これまでの学校保健と HPS との違いを明確にできたらよかった。
 - ・「健康」の概念化や定義が今後の課題となると感じた。
 - ・次回以降は、教員のメンタルヘルスや虐待等、関心の高いテーマに焦点を絞ってもよい。
 - ・HPS を進めて行くには養護教諭以外に、管理職に参加してもらう必要がある。
-

上記自由記述から、パネルディスカッションについては、音響設備へのさらなる配慮と改善が求められるほか、ディスカッションをより深めるための時間配分を検討することが必要であるといえる。

また、3 校の実践発表を含むパネルディスカッションの内容は、具体的で多様な実践が紹介された点が評価できる一方で、参加者にとって「理想」の提示と受け止められ、距離感を感じる者もいたことがうかがわれる。従って、今後は、これから HPS に取り組もうとしていたり、現実的な課題を抱えていたりする実践現場のニーズも汲み取った内容を計画する必要がある。

さらに、パネルディスカッション後、研修会半ばの参加した教員のメンタルヘルスに対するストレスマネジメントを意識したピアノ演奏は多くの参加者から好評を得ており、芸術活動のアウトリーチを含む HPS の幅広い取り組みをアピールすることにもつながったといえる。

（２）課題別研修に対する講師によるアンケート結果（概要）

課題別研修に対する講師のアンケートの自由記述の感想からは、課題別研修の運営や内容に関する課題も挙げられており、そのうちの主なものを表に示す。

【表：課題別研修に対する講師による感想】

-
- * 時間・設備に関して
 - ・時間が短いと感じた（内容が「消化不良」気味になった）。
 - ・もう少し長い時間設定にした方がよい。
 - ・パネルディスカッションと課題別研修の間の休憩時間が短く、せわしく感じた。
 - * 内容に関して
 - ・受講者は皆熱心に取り組んでいた。
 - ・参加者の背景が多様であり、どこに焦点化して内容を構成するかの検討が必要だった。
 - * スタッフに関して
 - ・学生スタッフの働きぶりが素晴らしかった。
 - ・前日までの準備のための人員確保（増員）が必要と感じた。
 - * 今後に向けて
 - ・参加者の動員に関して、直前に声をかけて集める形となったのでプロジェクト全体で取り組みればよい。
 - ・今後も継続していく価値があり、継続することが必要だと感じた。
 - ・分科会は、趣旨や参加者のニーズをふまえて構造的に組む必要がある。
-

上記より、課題別研修の時間の短さやパネルディスカッションからのスケジュール構成に関する検討課題が指摘できる。今回の課題別研修は10研修が55分（他、3研修は90分）と一般的な教員研修の講義に比べると短かったものが多かった。課題別研修の時間の長さは課題別研修の内容とも関連することから、検討していく必要がある。

（3）実施者評価（総合討論）

アンケートの評価は全体的に高かった。今回の総合研修における実践発表では、体の健康が強調され、身体的健康にシフトした印象があったので、今後は心身の両面から総合的に考えられる実践発表が望まれる。

3 総合考察

1) 本モデルプログラム（基礎研修・総合研修）に対する総合評価

教育学部と教育委員会で総合評価を行った。結果は以下のようである。

【基礎研修についての総合評価】

-
- * おおむね好評だったが、課題も明確になった。
 - * 今後は管理職向け、リーダー向けの研修開発が必要である。
 - * 地域差に対応した研修内容が必要である。
 - * 地域に根差した研修にするためには、例えばどのような研修が必要であるかオーダーを頂く等した後に、パッケージ型研修を作り、それを選んでもらう形がよい。
-

【総合研修についての総合評価】

—今後の方向性—

-
- *これまでの学校保健とHPSとの取り組みとの違いを明確にする。
 - *HPSとは自力でやり続ける学校、部分的でなく統合的に健康づくりができる学校、それを明確に打ち出していく。事前調査等を行いながら、その学校が自力で考え、HPSを実施出来るように支援をしていく必要がある。
 - *今後はより関心の高いもの、より焦点を絞ったもの等、全体的に研修運営を検討していく必要がある。
 - *現職の経験豊かな者と初任者等、それぞれのニーズに合わせていく必要がある。
(初任者向け、5、10年研修向け等)
 - *様々な地域の取り組みが必要になってくるため、研修はニーズに応じたパッケージ型を考えていく。組織の健康等、様々な研修メニューを用意し、ホームページに研修メニューを紹介するのもよい。
 - *現在の学校は基盤がバラバラであるという印象を持つ。HPSが学校管理マネジメントの基盤となることが重要である。学校安全計画、学校保健計画を基盤に考える。
 - *これからの学校がどのようなようになっていくのか、見通しを持って本研修プログラムの今後を考える必要がある。ここ10年間で学校は大きく変化する。一つの例として、若手教員の数が急激に増加し、中堅年齢層の教職員の数が少なくなるという問題がある。10年、20年後の学校の職員関係、組織としての指導力、若手教員を短期間に育成することが必要となることも踏まえた管理職研修や教員研修が必要となるだろう。その中にあって子どもたちをどのように教育すべきか。10年後を見据え考える必要がある。初任者研修をはじめ、教員研修の内容をどうすべきかなど、大きな課題である。例えば学校内では解決しない問題を地域の学校が連携し地域の学校全体で考えて行くなどの研修の方法や工夫が必要である。ベテランの先生は、現在の若い先生のコミュニケーションの取り方を非難したり、自分たちの時代のやり方を復活させたようばかりするのではなく、今の状況をどうとらえて、それに対処していくのかを考えることが大切である。以上、学校教員の全体年齢分布など、大きく変化することから、教員のメンタルヘルスなど、本プログラムを発展させていけるとよい。
-

2) 連携による研修について、他教育委員会に応用してほしい点

千葉県教育委員会と千葉大学との連携した研修は、他教育委員会と大学においても応用出来るものである。本プログラムの開発・評価から出てきた連係における課題がいくつかあがったので、今回の課題を参考として各教育委員会、大学と連携した研修を進めていただきたい。

【連携における注意事項】

-
- ・他の教育委員会や中央研修においても、学校保健安全法が施行され、このような研修自体が必要であることを認識してほしい。
 - ・全体的な研修だけではなく、時間などに応じて、課題別研修も可能である点を参考にしていきたい。
 - ・全体的な研修を行うのが難しかったら、作成したDVDを使用していきたい。
 - ・携帯電話利用と健康の関係等の新しい課題についても、関係各所と連携の上、健康的な学校づくりの中に適切に位置づけて対応を進めていただきたい。
 - ・食育のみならず、健康に関して、このような様々な側面が重要である点を参考にしていきたい。
-

Ⅳ 研修会資料

ここでは、総合的研修で使用した研修会のうち資料を使用した会については資料を冊子体に紹介する。

【HPS 概要】

岡田加奈子	HPS の概要説明
-------	-----------

【総合的研修における課題別研修】

高橋浩之	健康教育を通じて 子どもの実践力を高めるには
七澤朱音	フィジカルヘルスから考える健康的な学校づくり ～心と体のつながり～
砂上史子	幼児期からの家庭・保護者との連携
竹鼻ゆかり (東京学芸大)	健康課題を解決するための連携を考えるケースメソッド
北島善夫	発達障害の二次障害を防ぐ
花澤 寿	思春期の精神保健
磯邊 聡	学校における事件・事故とこころのケア
藤川大祐	健康教育とメディアリテラシー
石井克枝	おいしさと食育
小橋暁子	造形活動を通じた人との関係づくり
上杉賢士	学び環境の閉鎖性と解放性 ～大学院授業の学生による成果発表～
徳山郁夫	グループの空気はどのように作られる
保坂 亨	教員のメンタルヘルス
揚原祥子	音楽と健康

【全体概要】ヘルス・プロモーション・スクールとは？

ヘルス・プロモーション・スクールとは？

千葉大学教育学部教授
岡田 加奈子

ヘルス・プロモーション・スクール Health Promoting School

子ども、教職員、保護者、地域住民、専門家等、様々な人々が、連携・協力のもと、健康的な学校づくりを行い続けることができる学校

ヘルス・プロモーション・スクール

アプローチ

- ・ 健康教育
- ・ 環境整備(環境づくり)

推進する

- ・ 校内連携、家庭・地域との連携
- ・ 学校保健計画・学校安全計画

対象

- ・ 子ども
- ・ 教職員

健康教育

日本の健康教育

保健学習

保健指導
(集団・個人)

保健だより
ポスター等



【全体概要】ヘルス・プロモーション・スクールとは？

校内連携・
家庭地域との連携

学校社会

教師一人ひとりの頑張りで
支えられている



連携を阻む潜在的な学校文化

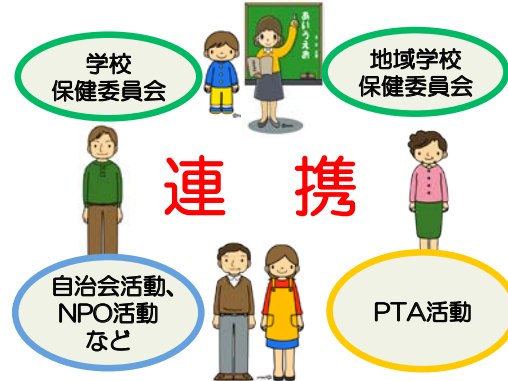
学級王国・部活王国・・・

学校という組織は、互いの縄張りには口をはさまないという暗黙の了解の上に成り立っている。

(天笠2007)

家庭・地域との連携

家庭・地域との連携



台湾では保護者がボランティアとして
救急処置や書類の管理を行う

家庭地域と学校のコミュニケーション

保護者・地域住民の

学校保健計画・
学校安全計画作成への
参画

子ども・教職員の

地域の
ヘルスプロモーション
活動への参加

【全体概要】ヘルス・プロモティング・スクールとは？

学校保健方針 学校保健計画・学校安全計画

東京都教育委員会

- ・取り組むべき優先課題の重点プログラムを提示

香港など

- ・HPS推進のための研修制度の整備。
- ・評価規準・基準が具体的に提示

東京都教育委員会が提示する重点項目

(1) 健康づくり体制の構築

- ・重点プラン1：学校保健評価システムの導入
- ・重点プラン2：健康ノート（仮称）の活用
- ・重点プラン3：健康づくり実践校への支援と認証

(2) 健康づくり推進のための支援

- ・重点プラン4：学校保健・地域保健連絡会（仮称）の設置
- ・重点プラン5：健康づくりフォーラムの共同開催

(3) 児童・生徒の健康課題に対する環境整備

- ・重点プラン6：専門医による学校相談活動の実施
- ・重点プラン7：室内化学物質対策の充実

(4) 都立学校における健康教育の充実

- ・重点プラン8：実践力をはぐくむ健康教育の推進
- ・重点プラン9：運動・体力づくりの推進
- ・重点プラン10：食に関する指導の充実
- ・重点プラン11：薬物乱用防止教育の推進
- ・重点プラン12：青少年健康危険行動調査の実施
- ・重点プラン13：子育て理解教育の推進

日本に求められる点

優先的健康課題の明確化
評価規準・基準の設定

研修制度の整備

環境整備



台湾の学校の遊具の下には
コルクが敷き詰められている

【全体概要】ヘルス・プロモーション・スクールとは？



学校環境 (一例)		
午後の 昼寝	ユニバーサル デザイン	安らぐ空間 (ヒーリング アート)

教職員の健康

教職員の健康

香港

教職員向け自殺防止プログラム
各学校での作成の有無を評価

上海

娯楽誌のある
リラクゼーションルーム

シンガポール

教職員向け運動プログラム
アロマセラピー
マッサージ など

日本



高い専門性を持った人が、多忙がゆえ
自らの健康を犠牲にしやすい

教職員や学校自らが、教職員の健康に
ついて考える時間や機会を持つことが重要



本研究は、独立行政法人教員研修センターの「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」の助成を受けて実施いたしました。心より御礼申し上げます。

[キーワード]

ヘルス・プロモーション・スクール、学校経営、リーダー、マネジメント、健康教育、メンタルヘルス、メディアリテラシー、特別支援、養護教諭

[人数規模] D

[研修日数（回数）] A

【問い合わせ大学】

国立大学法人 千葉大学

教育学部 岡田加奈子研究室

〒260-0031 千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33

TEL 043-290-2635

千葉県教育委員会

教育振興部 指導課

〒260-8667 千葉市中央区市場町 1-1 中庁舎 8 階

TEL 043-223-4065

平成 22 年度 独立行政法人教員研修センター委託事業

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

ヘルス・プロモーション・スクール（健康的な学校づくり）

を推進する教員養成プログラム

千葉大学教育学部

ヘルス・プロモーション・スクール・プロジェクト

（代表：岡田加奈子）

国立大学法人 千葉大学 教育学部

〒260-0031 千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33

平成 23 年 3 月発行